

コード	名称	区分	コード	名称
事業名 356-2	児童福祉一般経費(病児保育事業)	会計	01	一般会計
		款	03	民生費
		項	04	児童福祉費
		目	01	児童福祉総務費
基本 施策 08	子どもを産み育てやすい環境をつくる	細目	216	児童福祉一般事務経費
		細々目	01	児童福祉一般経費
行革大綱の重点事項番号				
担当部課	コード	130700	担当者 氏名	川口 寿美
	名称	健康福祉部こども家庭課		連絡先

事務事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)	病気の回復期にある小学校3年生までの児童を一時的に預かる。 ※対象件数
成果(どうする)	保護者の子育てと就労の両立を支援するとともに、児童の健全な育成を図るため、保育士及び看護師を配置して、多様な保育サービスの充実に繋げる。
根拠法令・要綱等	伊賀市病児・病後児保育室設置及び管理に関する条例
開始年度	平成 年度
終了年度	平成 年度
事業 内容	H22 病気の回復期であり、かつ、集団生活が困難で、かつ、保護者の勤務等の都合より家庭で保育を行うことが困難な児童であって、市が必要と認めた小学校3年生までの児童(162名)を一時的に保育した。 また、病後児の看護を担当する看護師1名と病後児が安心して過ごせる環境を整えるために、保育士を1名配置して、保護者の子育てと就労の両立を支援した。
	社会情勢 の変化等

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積 (延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体	
委託先	
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の 類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動 指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H21	H22	H23	H24
利用日数	日		目標	65	目標	70
			実績	65	実績	125
			目標		目標	
			実績		実績	

成果 指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H21	H22	H23	H24
利用者数	利用者数		人	目標	75	目標	80
				実績	77	実績	162
				目標		目標	
				実績		実績	

投入 コスト	直接事業費計(A)	H21 決算	H22 決算	H23 当初予算	H24 当初要求
		(千円)	(千円)	(千円)	(千円)
A の 財 源 内 訳	国庫支出金	4,526	4,526	4,223	4,223
	県支出金	1,833	2,812	2,800	2,800
	地方債				
	その他				
	一般財源	2,693	1,714	1,423	1,423
	事業投入人件費(B)	0.2人 1,440	0.2人 1,440	0.2人 1,440	0.2人 1,440
	フルコスト(A)+(B)	5,966	5,966	5,663	5,663

事務事業の評価(Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)	
必 要 性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業	○	「伊賀市病児・病後児保育室設置及び管理に関する条例」による
	個人の方だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業		
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業		
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業		
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業		
有 効 性	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業	○	保護者の就労時間を確保でき、子育て世帯にとって必要不可欠な事業である。
	国や県、民間が同様のサービスを提供している事業		
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業		
	民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業		
	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業		
進 成 度	事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業	○	【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】
	【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】		
	財政状況を考慮し、事業を休止した場合、市民生活への影響が大きい事業		
	【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】		
	保護者の仕事と育児の両立に大きな負担となることから、病児・病後児を保育する体制が必要である。		
効 率 性	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。	○	コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。
	基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高		
	サービス水準や対象を見直す余地がある。		
	当初設定した計画を 100% 実施している。【計画に遅れが生じている場合、改善策】		
	予算の繰越の有無 無		
昨 年 度 の 取 組 状 況	【状況】	○	計画のとおり進んでいる
	【詳細】		
	他事業主体の活用、事業移管が可能である。		
	基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。		
	【事業名】		
受益者負担を求めることができる事業である。			
全体コストにおける負担構成は適正である。			
コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。			

改 善 策	病児保育事業と緊急サポート事業の連携を図り、保護者の多様なニーズに応え利用しやすい施策を平成23年度までに検討し実施する。
昨 年 度 の 取 組 状 況	チランによる市民への周知を行った。また、1日に預かる子どもの人数制限がある中で、病気の種類等により保護者のニーズに応えられるよう配慮した保育事業を行った。

今後の方向性(Action)

担 当 課 長 氏 名	秋永 啓子	
事 業 の 方 向 性	【方向性】	現状維持
	【理由】	病児・病後時であっても親が看病を出来ない状態にある子どもを一次的に預かることにより、看護師、保育士が待機をしてくれているので安心して保護者が働ける。 現在、病気の種類にもよるが病後児が安心してすごせる環境を整えるには、1日3名程度の預かりでないとい保育が困難となってくるので、保育士の増員を図り、預かれる人数を増やしていきたい。
現 時 点 に お け る 課 題 、 そ の 他	利用者数が少なかった原因を、「PR不足ではないか」と考え、今年小児科のある診療所や保育所等にチランを配布した。その効果があったのか、利用者数が増加の傾向にあるが、1日3名という枠から少しの増員は良しとしても、病気を抱えている子ども達であるので、ここで感染しないようにするためには、多くの子どもをあずかることは出来ないのでは、受け入れが出来ない日が出てきた。	
課 題 、 そ の 他 に 対 する 改 善 策 (いつまでに、何を、どうする)	受け入れが出来ない子どもをどのようにするのか・・・現在の施設のスペースは十分あるので、解消するには、待機保育士が必要となってくる。・・・保育士の確保・・・保育所の代替保育士を回すことが出来るかなどの検討を行っていく。	